

経営比較分析表（平成29年度決算）

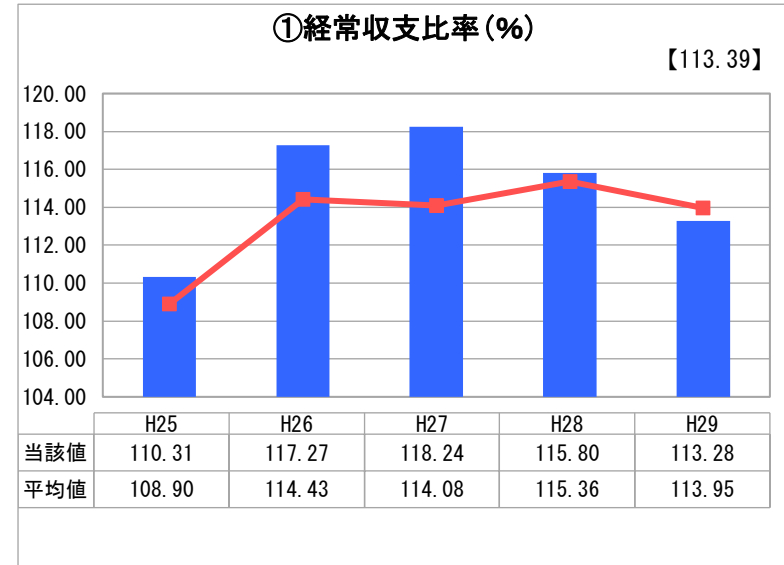
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	61.72	97.52	1,814	

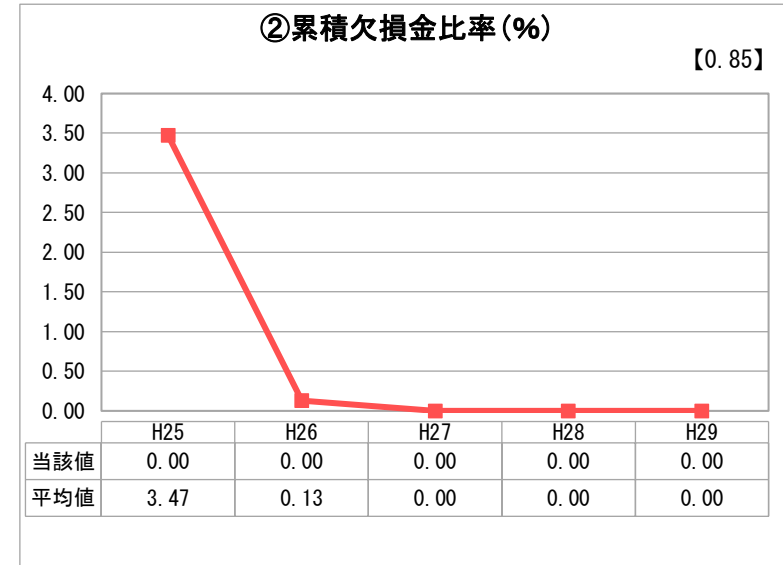
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
265,260	536.41	494.51
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
257,302	263.07	978.07

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

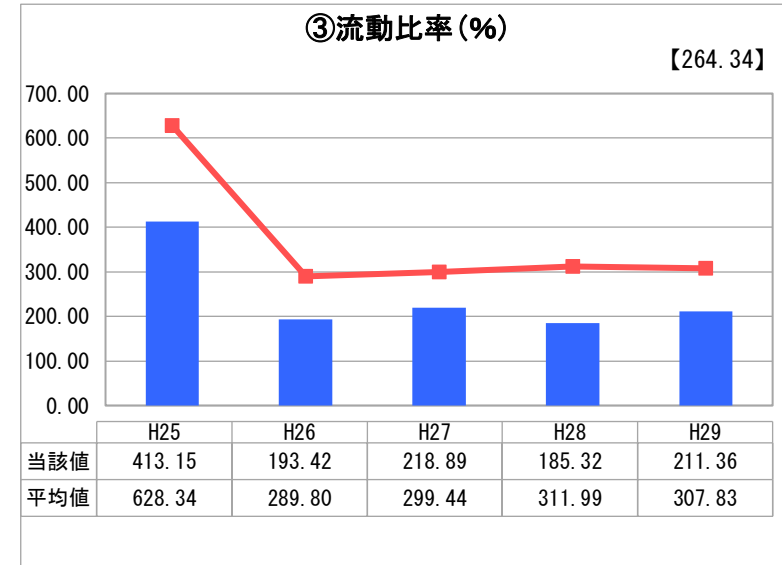
1. 経営の健全性・効率性



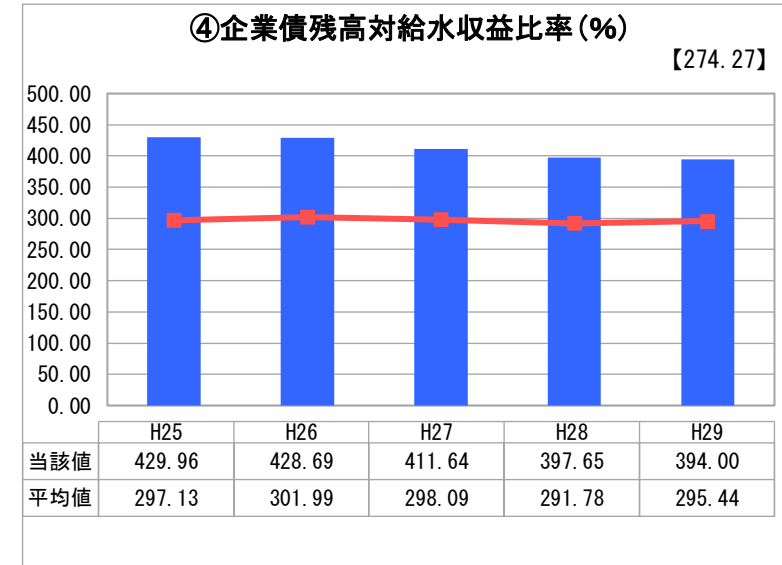
「経常損益」



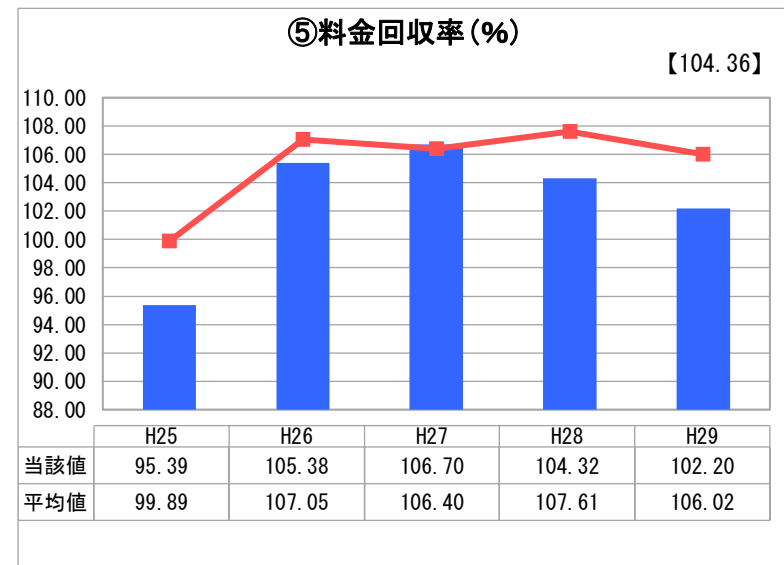
「累積欠損」



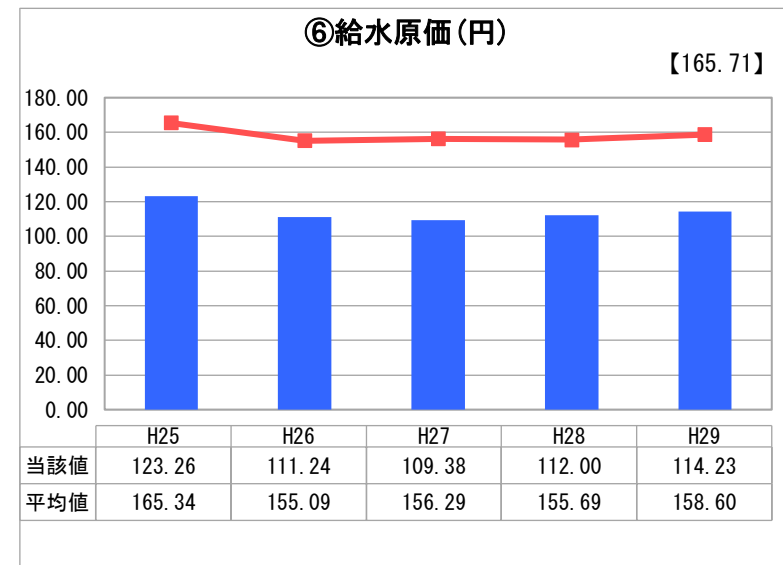
「支払能力」



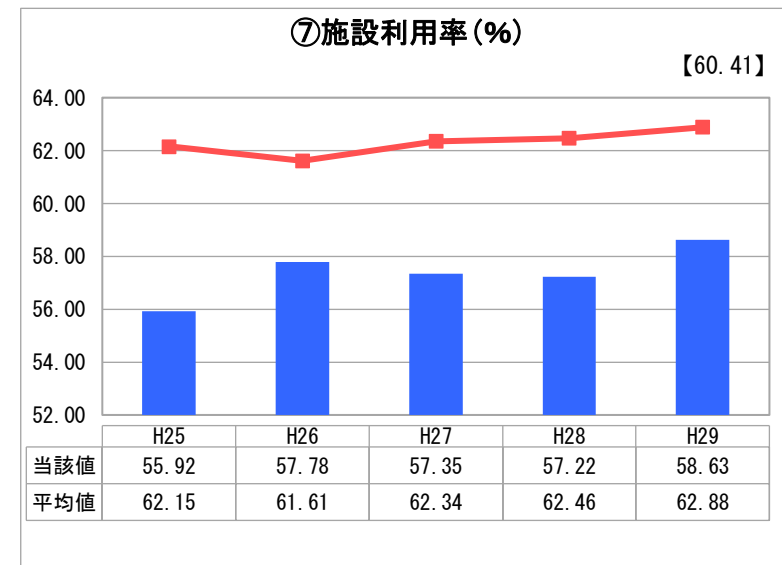
「債務残高」



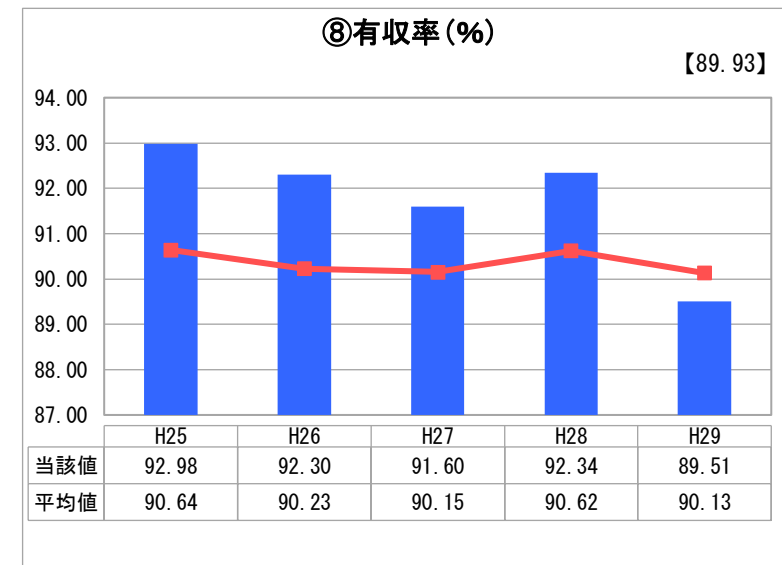
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

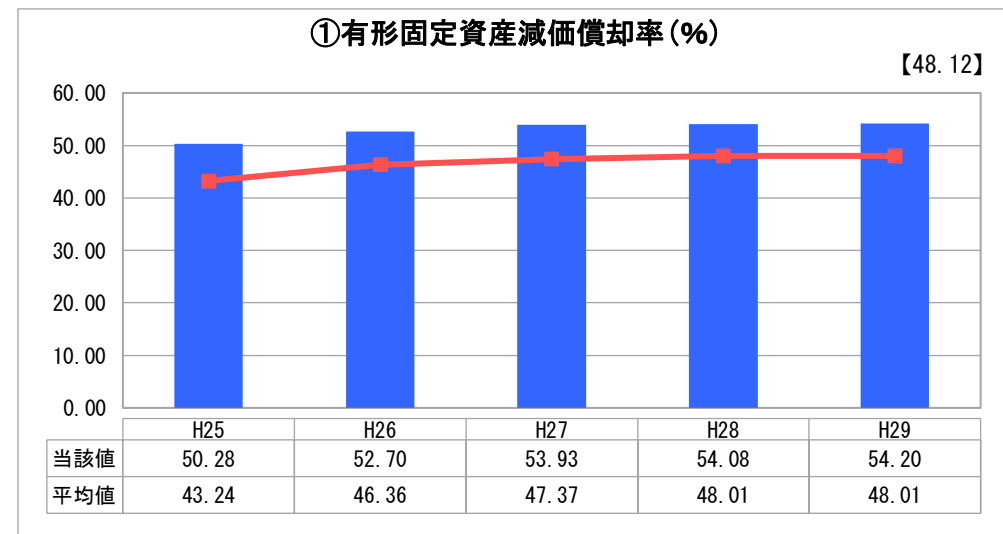


「施設の効率性」

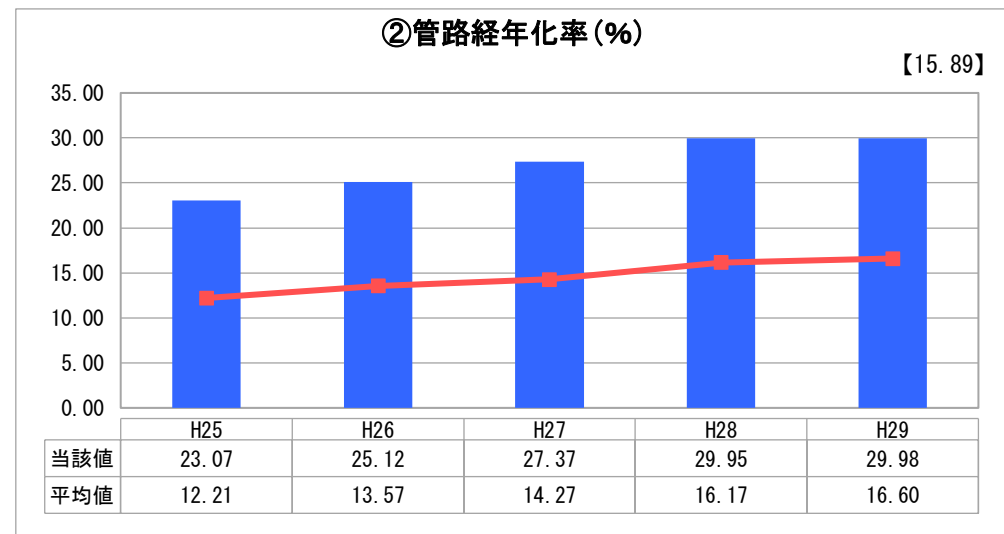


「供給した配水量の効率性」

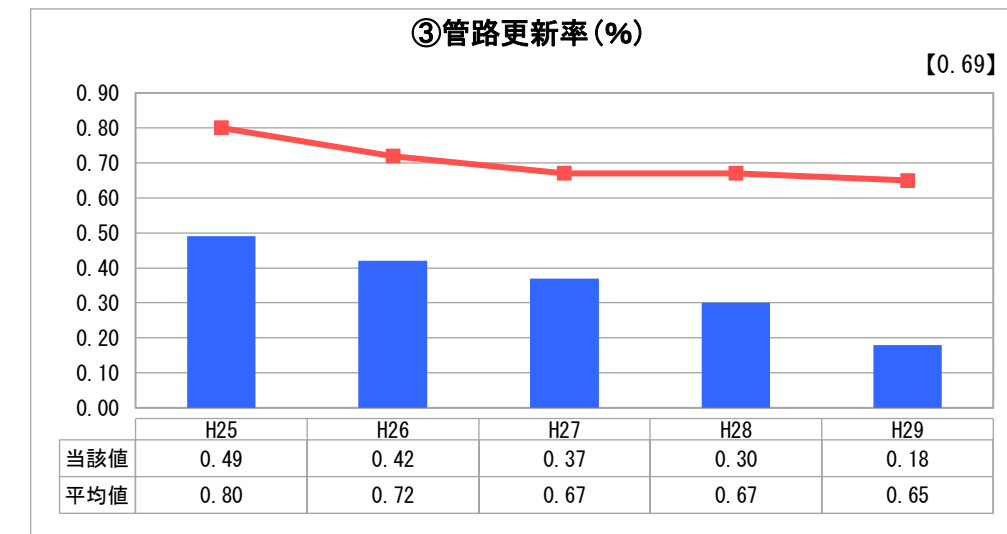
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び③流動比率、⑤料金回収率については100%を上回る水準を、②累積欠損金比率については0%を維持しており、これまで健全な経営を行っている。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均を上回っているが、当市の水道料金は他都市と比べて低い水準にあることから、給水収益が少ないことが影響していると考えられる。企業債残高については削減に努めていく。
 ⑥給水原価は類似団体平均を下回り、有収水量1m³あたりの費用は低く抑えられている。
 ⑦施設利用率は類似都市平均に比べて低く、施設能力に余裕があり、需要の変動にも対応できる状況となっている。
 ⑧有収率は大雪により一部のメーター確認ができなかったことから、類似都市平均を下回る結果となった。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回り、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却が徐々に進んでいる。
 ②管路経年化率は類似団体平均を上回り、法定耐用年数を経過した管路を多く保有している状況にある。管路の更新については順次進めているところであるが、当市の管路延長は2,000km以上に及び、③管路更新率は類似都市平均を下回る状況となっている。特に平成29年度は大雪により工事を多く繰越したことから、③管路更新率が低くなっている。施設や管路の重要度や優先度を判断し、計画的な更新を行っていく。

全体総括

経営の健全性・効率性について、当市の水道事業は健全で効率的な運営を行っている。しかし、近年の人口減少や節水機器の普及により水需要が減少している中、老朽化した施設の更新や耐震化に多額の財源が必要になることから経営環境は厳しさを増している。そのため、平成31年1月に料金改定を行い、事業の財源を確保し、中長期的な経営の基本計画である「福井市水道事業経営戦略」により、事業の重要度、優先度を考慮した施設の更新や耐震化を進めていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。